

中高

ひがしチャレンジデー中間アンケート結果

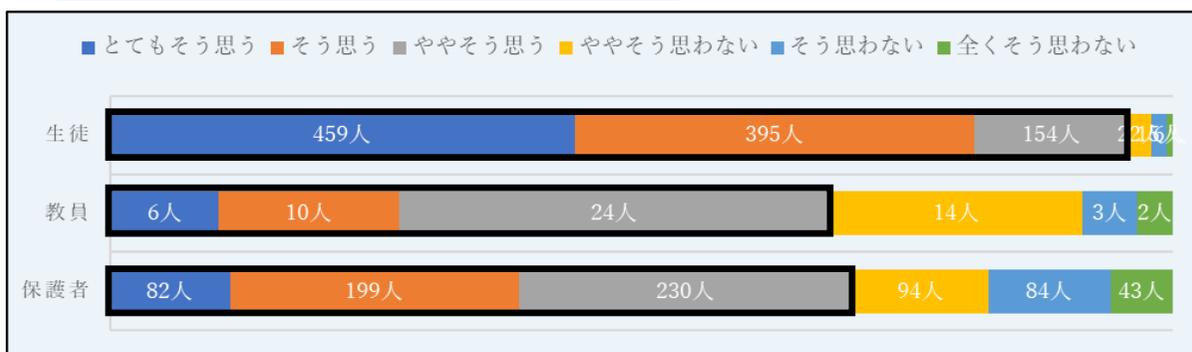
保護者の皆様には、「ひがしチャレンジデー」の検証アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。732名の保護者の皆様にご回答いただきました。生徒および教員の回答も含め、次年度の対応について検証を行っているところです。いただいた回答の一部ではありますが、アンケート結果をお知らせしたいと思います。年度末にも改めて検証アンケートを実施する予定ですので、ご協力をよろしくお願いいたします。

1. 結果の概要

(1) 共通質問

Q1. 「ひがしチャレンジデー」は「主体性を身につける」ために役に立つか。

生徒の95%超、教員・保護者の約70%が、肯定的に評価



〔まとめ〕

◎生徒の95%超、教員・保護者の約70%が、「主体性を身につける」ために役に立つと肯定的に評価をしている。

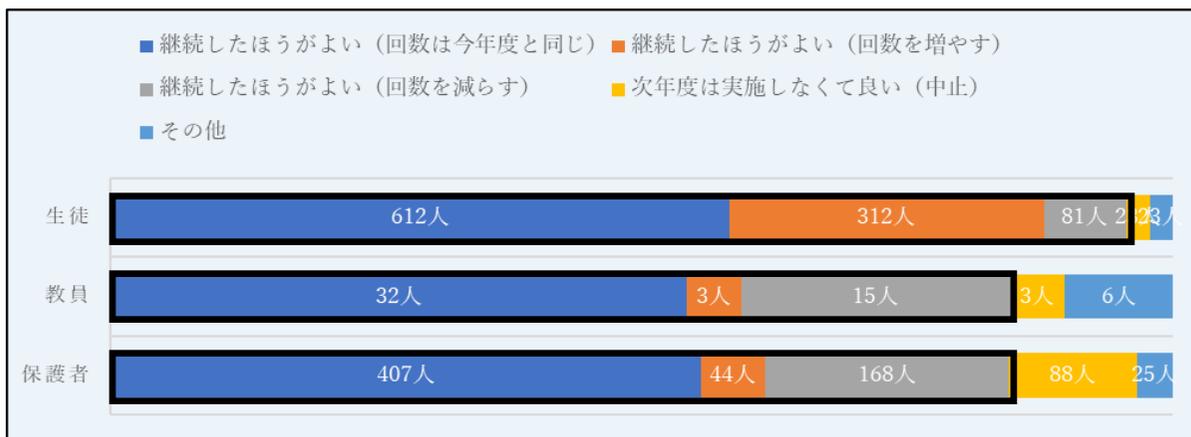
○ただし、生徒の多く（43.7%）が「とてもそう思う」と最も評価する項目を選択しているのに対し、教員・保護者の多く（教員 40.7% 保護者 31.4%）が「ややそう思う」という評価に留まっている。

◆生徒自由記述（○：肯定的コメント ●：否定的コメント）

- 自分のやりたいことに熱心に取り組むことができる時間が増えることは、より深く「自分」という物語を広げることまた、心の支えにもなります。気持ちに隙間ができ、何事もやってみると様々なことに責任を持って行動できます。だからこそ、その東チャレンジデーで鍛えたものを学校生活につなげていけます！（中1）
- 疲れているときにリラックスすることもできるし、学校や図書館で自学したりなど、自分の時間の使い方を考えられるから。（中2）
- すべきことや予定を自分で立てて、実際に遂行することで将来的にもとても役立つと思うから。（高1）
- 自分で使える時間が長くあることで、ベストな使い方をを行い、リラックスと学習の両立などができるようになるから。（高2）
- 自分がしたいと思う勉強についての計画を立てられ、自由に実行できるので、主体性はよく身につく。（高3）
- 一日じゃできることは限られているし、いつもと同じ休日のような過ごし方になってしまうから（中2）
- 授業数が足りなくなる。また遊んでる人が多すぎて心配。（高2）

Q2.来年度の「ひがしチャレンジデー」について。

生徒の95%超、教員・保護者の約85%が、継続すべきと回答



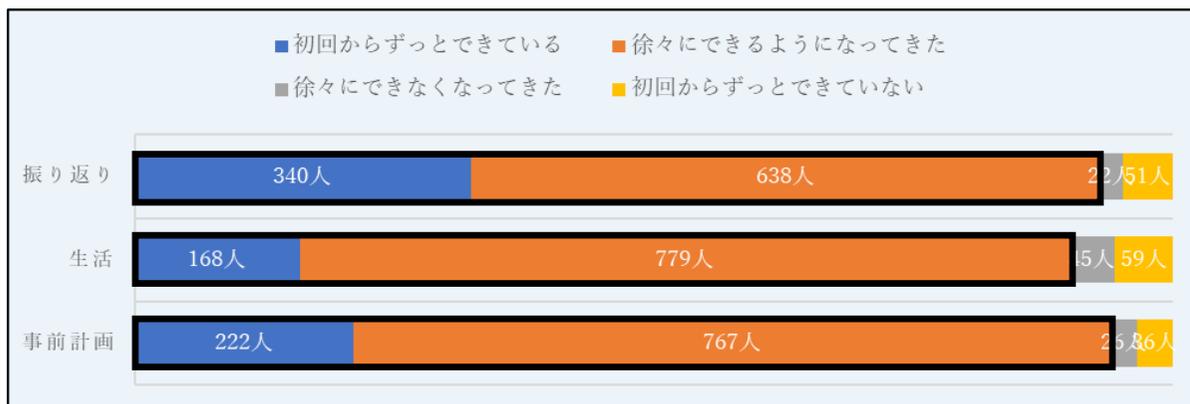
〔まとめ〕

- 生徒の95%超、教員・保護者の約85%が、継続すべきと回答している。
- 回数については、現状維持が生徒・教員・保護者のいずれも過半数を占める。
- ただし、次点について、生徒は「回数を増やす」(29.7%)であるのに対し、教員・保護者は「回数を減らす」(教員 25.4% 保護者23.0%)であり、評価が分かれる。

(2) 生徒のみへの質問

Q3. 「事前の計画」「計画に基づく生活」「振り返り」ができているか。

90%超ができてきていると回答



〔まとめ〕

- ◎ 「事前の計画」「計画に基づく生活」「振り返り」のいずれの項目も、90%超ができてきていると回答
- 「事前の計画」「計画に基づく生活」「振り返り」で比較すれば、「計画に基づく生活」について「できなくなってきた・できていない」の回答が最も多い(9.9%)。

Q4. 「ひがしチャレンジデー」によって時間を管理する力が向上したか。

90%超が肯定的に評価

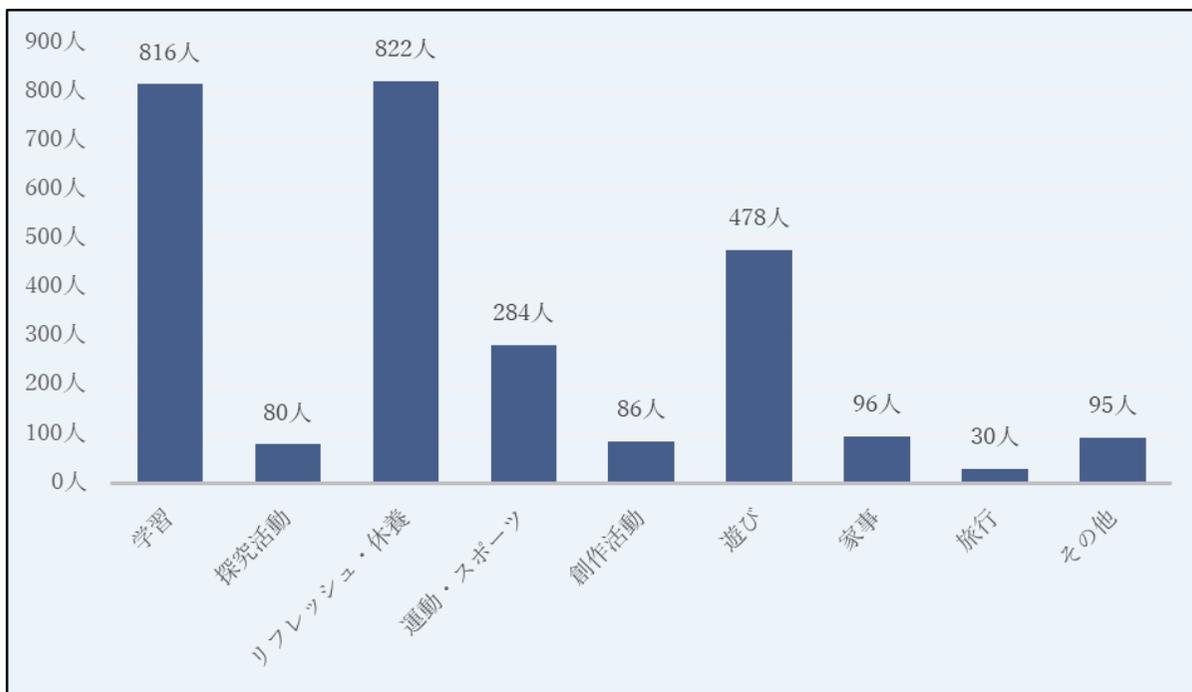


〔まとめ〕

- ◎ 全生徒の90%超が肯定的に評価をしている。
- 否定的評価においても、「全くそう思わない」「そう思わない」はわずか(0.7%、1.9%)であり、時間を管理する力の向上については、多くの生徒が手ごたえを感じている。

Q5. 「ひがしチャレンジデー」をどのように過ごしたか。

「学習」と「リフレッシュ・休養」がどちらも約80%と最多



〔まとめ〕

◎「学習」と「リフレッシュ・休養」を選択した者がどちらも約80%（77.6%、78.2%）と最も多く、遊び（45.5%）がそれに次ぐ。

Q6. 「ひがしチャレンジデー」だからこそできたということがあれば。（生徒自由記述）

- おばあちゃんへの絵はがきを水彩画でつくれたこと（中1）
- 祖父の住んでいる地域でのミカン狩りの仕事に参加できたこと（中1）
- 通学用の定期券などをつかって、いける範囲で長崎市中をまわった。こういう機会がなければ部活などで忙しくてできなかった。（中1）
- 一日間、ずっと、自由に自分のしたい教科の学習をすることができた。（中1）
- 部活がなかったので、家の手伝いをたくさんできた。（中2）
- 友達と一緒にかなり遠いところまでバス旅をしました！二人しかいない中バスのチケットを買って、帰りのバスに間に合うように時間を気にしながら行動できました。かなりチャレンジできた一日でした。（中2）
- 楽器の練習にじっくり取り組むこと。（中2）
- 普段は部活で忙しいので、お母さんとゆっくり喋ることが出来た。（中2）

- 被爆体験者裁判の傍聴に行き、いつも活動している皆さんの判決を見守ることができ、とてもよかったです。（中3）
- 自分が興味があったスマート農業を実際に見ることが出来た。（中3）
- もともと計画を立てることが大の苦手だった私ですが、チャレンジデーでは時間に余裕を持てるようになったため、計画を立てて動くことの楽しさや大切さを実感できました。（中3）
- 時間があったので今まで勇気がなくて一人でできなかったことができた。また、自分の好きなことを勉強できる時間が出来たことが嬉しい。（中3）
- チャレンジデーだと全部の部活が休みなるから普段部活で予定が合わない友達とも遊んだり勉強会をすることができました（高1）
- 家族と過ごす時間を少し増やすこと。（高1）
- 疲れがたまったときに思いっきりリフレッシュをすることができ学習がはかどる。部活がないため、一日中、授業で分からなかったことについて徹底的に突き詰めることができる。他にも自分がやりたいことをできる。（高1）
- 叔母の家に行ったらたくさん時間を使って家族の話をしたり普段多く取る事ができない休養の時間に当てる事が出来リラックス出来た。（高1）
- 人が少ないうちに料理教室に行けたので、同年代でない人との交流が増え、少しだが世界が広がった。（高2）
- 自転車で伊王島まで行くことができた。（高2）
- 普段会えないような友達と会えたり、苦手分野の総復習ができてよかった。（高2）
- 日頃は課題などがあり自主学習をする時間があまりとれないことも多いがこの日を使って今の自分に不足している教科や分野について勉強することができ有意義に活用できた。（高2）
- サーフボードの体験（高2）
- 丸一日パンを作り続けました。（高2）
- 自由な時間が一日とれるのはとても大きいことです。体調を整えたり、元気であれば、一日中勉強したり、チャレンジデーがあることによって気持ちが整うからまた明日も学校頑張ろうっていう気持ちになります。（高3）
- 家族との時間が取れるようになり、会話が増えた。（高3）
- 授業が一日止まるので、まとめて復習ができるようになり、授業についていきやすくなった。（高3）
- 模試続きやストレスが溜まって寝不足になり、1週間耐えられないと思った日にあったので休息が十分にとれて救いだった（高3）

(4) 保護者のみの質問

Q7. 「ひがしチャレンジデー」について、なにかあれば。(自由記述)

[中学の保護者] (○：肯定的コメント ●：否定的コメント)

- ふるさと教育の観点から長崎くんち等のイベントに合わせたも良いのではないのでしょうか？
- 仕事柄、学校優先になりがちな先生方が、趣味や家族との時間を計画的にとれるのは良い取り組みだと思う
- 昨年の子どもの様子を見てみると、授業の予習復習、課題、部活動、行事の準備…と、あまりにも「やるべきこと」が多すぎて、休む暇がなく心身ともに疲労していたと思います。チャレンジデーが導入されてから、友達と遊びに行くこともあれば、課題をする日に当てたり、本を読んだり家でボーッとすることもできたりと、自分なりに有意義に過ごしている様子です。また昨年はなかなかできなかった通院や予防接種もできました。どの時間も中学生にとって大事だと思うので、大変良い取り組みだと感じます。
- 良い取組というか、皆さんどのように活用されているのか、ホームページやノートなどでもいいので、教えていただきたいです。家庭でも話題にしながら、よい時間の過ごし方を考えさせていきたいと思います。
- 学校に行ってもいいし行かなくてもいいということだけでも本人なりに悩んで決めているので、考えるという機会は大切だと思った。自分で決めたことを最後までやり抜いてほしいと思う。
- 与えられたものをこなすだけではなく、自ら考えて行動する能力を磨く訓練になるので、とてもいい取り組みだと思います。
- 回数を重ねるにつれ、有意義な使い方ができていると思います。
- 保護者の立場からだと、学校へ行ってくれた方が安心です。でも、それぞれの自主性に任せてチャレンジする日、という目的があつての平日の休日であるなら、生徒や先生方の気持ちはまた違うと思います。わが子は、一日中好きなことをして過ごしています(勉強はしていませんが)。生徒、先生、保護者それぞれの立場のアンケートの結果を見て、みなさんの声を聞いてみたいなと思います。
- 親の負担も増えるので、中止にしていきたいです。
- チャレンジデーの意味が見出せないのでやめるべきだと思う
- チャレンジデーこそスマホやゲームをせずに何かみつけて取り組もうと学校からさらにほしい

〔高校の保護者〕（○：肯定的コメント ●：否定的コメント）

- 子供が毎回何をしようか、楽しみにしています。
- 生徒にとっても先生にとってもいい取り組みだと思います。
- チャレンジと言えるのかはわかりませんが、チャレンジデーがあることで予定がたてやすいです。例えば、髪切りや病院など。
- 新しい試みをしていただきありがとうございます。保護者としながらも、毎日の子供の学校生活にほんの少しですが、ゆとりが生まれたような感じでした。ぜひ、継続して頂きたいです。
- 親としては学習面での活用を期待しているが、実際はちょっとのんびりできる日、で終わっているようだ。中にはそんな利用の仕方の日もあってよいと思うが、学習や将来に向けて積極的に活用している生徒さんの例があれば知りたい。学校としてのんびりするもよし、しっかり勉強するもよし、のスタンスであれば、こちらもあれこれ言わず子どもに任せようと思っています。
- 日中はスマホゲーム、夜に勉強ならいつもと変わらない、もしくは学校に行ってるほうがいいのではと見ていて思う日もあります。どうすごすかは本人次第だと思うので口を出さないようにしています。
- 高校生の生活は、いわば「走りっぱなし」の状態ですので、定期的に立ち止まり、自分自身を振り返る時間やタイミングがあることは大変有意義だと思います。「学校がすべて」の生活から「学校以外の世界」に目を向けることができ、生徒のみならず先生方にとってもQOLの向上につながっているのではないでしょうか。
- 受験生でなければ、もっといろいろな体験も出来ただろうし、有効な使い方が他にもあったと思うので残念ではあるが、続けてみて統計を取ったりして効果を考えてもらいたい。今年だけでは分からない部分もあると思う。
- 親にとっても子どもにとっても素晴らしい取り組みだと思います。
- 親離れ子離れする良いきっかけとなりました。
- 日頃忙しいのでリラックスにしか使っていないようだ。良いことだと思うが、勉強に充てる子との差が広がるのではなかろうか？という不安はある。
- 自主的に頑張れる力のある子達や、3年生にとっては有意義な日かもしれません。普段お忙しい先生方にとっても。しかしながら、サボる遊ぶ寝る事しか考えていない我が子にとっては、ただ友達と遊びに行く日でした。意義を伝えても生返事しかしません。申し訳ありません。
- 出来る子と出来ない子の差があるな、とは思いますが
- 主体性が身に付いていないので、一日ダラダラと過ごしたり、遊んでいただけでした。

「中間アンケート」を受けて

校長 立木 貴文

日頃より本校の教育活動にご理解とご支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。今回のアンケートの実施に際しては、多くの保護者の皆様にご協力をいただきました。

ご回答いただいた皆様、ありがとうございました。

本取組については、昨年度末と入学式の際にお伝えしていただけていたので、せっかくの機会でもあり、改めて説明させていただきたいと思います。

本校では、今年度から県教育委員会の「モデル校による新たな学校運営の実践事業（イノベーションハイスクール）」の指定を受けて“生徒・職員が自ら管理できる日”を設けることとし、『ひがしチャレンジデー』として実施しております。

皆様にお届けした文書からの抜粋になりますが、その趣旨や目的は以下のとおりです。

1. 趣旨

- 社会が急激に変化し不確かさや不透明さが増す中であって、これからの社会の形成者としての資質・能力を育成するために、生徒が自己理解を深め、自己の在り方・生き方を考え、社会に主体的に参画する「主体性の育成」が求められている。
- 教職員についても、これからさらに求められる新たな学びに対応するための自己研鑽や研修が必要になるとともに、全社会的な「働き方改革」の中でワークライフバランスの確保が求められている。
- 本校ではこれまでも上記を踏まえた取組を行ってきたが、生徒・職員に求められるもののより一層の充実を図るため、「ひがしチャレンジデー（生徒・職員が自ら管理できる日）」を試行的に導入する。

2. 目的

授業日でも休業日でもない「3つ目の区分の日」と位置付け、生徒・職員それぞれに以下を主な目的として自ら考えて計画し、その計画に基づいて過ごす。

- 〔生徒〕 * やるべきことを計画的に行う主体的な学びの充実
- * 自身で時間管理を行う経験の蓄積（平日通院や心身のリフレッシュ等）
- 〔職員〕 * 新たな学びやICT活用等に対応するための自己研鑽・研修
- * 心身のリフレッシュ（年休取得を推進）

「2. 目的」にも記しているとおり、生徒については「やるべきことを計画的に行う主体的な学びの充実」と「自身で時間管理を行う経験の蓄積（平日通院や心身のリフレッシュ等）」の2点を目的としています。呼称のとおり、普段の生活ではなかなか実現できないことを計画し当日を使って“チャレンジ”することも可能ですし、他日の時間を有効に活用するために平日の通院や心身のリフレッシュに用いることも可能としています。

生徒一人一人が、趣旨や目的に沿った時間の過ごし方を自分自身で考えて計画し行動することを大切にしてもらいたいと考えています。

一部の保護者の方からは、「生徒がどのように計画を立てどのように過ごしたのかを、学校に報告をさせるべき」とのお声もいただきました。もっともなご意見と思います。

ただ、私は、他が生徒を外形的に管理するのではなく、生徒自らが“今日の過ごし方はこれでよかったのか”と自身に問いかけて次の行動につなげる、そのような内省的な振り返りを大切にしてもらいたいと思っています。

“生徒それぞれに成長の早さは違うけれど”という但し書きは必要かもしれませんが、中学・高校ともにすべての長崎東の生徒は、それができるようになると私は信じています。

本校の生徒には、中学生・高校生の時から少しずつでも自分の時間をどのように使うべきかを考え、行動し、振り返る、そのような経験をしてもらいたいと思います。これからの社会の形成者である子どもたちは“未来からの留学生”と言われます。彼らが、自分たちの未来を自ら考え他者とともに行動することでより良いものにしていく、そのための基盤を長崎東の3年・6年の間に生徒それぞれの中に作ってくれたらと願っています。

今回のアンケートは、年間設定している日数（中学6日、高校9日）の約半分（中学3日、高校5日）を実施した10月に行い、生徒の約9割にあたる1,051名、保護者の約7割にあたる732名の皆様に回答いただきました。

学校だより11月号にも記しましたが、今年度始めたばかりの取組にも関わらず、生徒、保護者いずれも回答者の約7割が「主体性の育成に役立つ」と評価してくださっており、大変ありがとうございます。また、子どもたちの回答からは、事前に計画を立てることや計画に沿った生活、その日を振り返ること、時間を管理する力の向上など、彼らなりに手ごたえを感じている結果が出ています。保護者の皆様から見れば心許ないところも多いかもしれませんが、子どもたちの成長を温かく見守っていただけたらと思います。

保護者の皆様からのコメントも、すべて読ませていただきました。

多くの皆様から“意義ある取組”との評価をいただく一方、趣旨の十分な周知や安易な遊興に流れない工夫の必要性、授業進度の懸念など、率直なお声もいただきました。

今回、このように学校だよりの臨時号をお届けしていることも、そうしたご意見への回答の一環と考えております。生徒への趣旨の周知や「自ら考え行動することの大切さ」を伝えることについては、先日の全校朝会で高校教頭から生徒に話をしてもらいました。加えて、主体性の育成に関して生徒への講演経験を豊富にお持ちの専門家の講演会も、先方の都合で少し先になりますが、3月に予定しております。

保護者の皆様からは、「性急に結果を求めるべきではない」「現状で数年様子をみたい」「しばらく続けて成果を見た方がよい」とのご意見もいただきました。今後も、この取組がより良いものとなるように、生徒、教職員とともに“育てて”いきたいと考えております。引き続きのご理解とご支援をいただきますようお願いいたします。